

令和 5 年度

事業の課題に対する 健康局の取組について

大阪市における在宅医療・介護連携推進事業のめざすべき将来像

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、多職種協働により在宅医療と介護を一体的に提供できる体制が構築されている。

事業推進のための課題

在宅生活継続のためには、在宅医療・介護サービスが必要であり、切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築を推進していく必要がある。

- # 1 切れ目のない在宅医療・介護の提供体制ができているかの現状把握や評価が難しい。**
- # 2 在宅医療・介護連携推進のためには、入退院時の情報共有など広域的な連携の仕組みが必要である。**
- # 3 在宅医療、介護関係者及び市民の看取り（ACP）の認知が浸透していない。**
- # 4 事業が複雑で専門性が高く、区役所・相談支援室ともに担当替えによる引継ぎが容易ではなく、事業の継続性が難しい。**

局の取組

- 1. 事業の進捗管理**
- 2. 広域連携の仕組みづくり**
- 3. 区役所・相談支援室に対する積極的支援**

取組 1 事業の進捗管理

今年度の取組

区役所・相談支援室への取組調査（上半期）からみる事業の進捗管理

➡ 資料 1 にて報告

取組 2 広域連携の仕組みづくり

今年度の取組

① 看取り場面をテーマとした多職種研修会の開催

② 11月を人生会議（ACP）強化月間として区役所の取組を推進

健康局主催の市民向け人生会議（ACP）セミナー

③ 大阪市 在宅医療・介護連携相談支援室活動報告会の開催

➡ 資料 2
にて報告

看取りの場面をテーマとした市内基本保健医療圏域ごとの多職種研修会の開催

♡ <内容>

第1部 基調講演

第2部 名刺交換会とワールドカフェ



北ブロック : 北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区

日時・場所 : 令和5年9月19日(火) 14:00~17:00 中央区民センター

講演テーマ : 「歓びのある看取り」

医療法人学縁会 おおさか往診クリニック 理事長 田村 学

西ブロック : 福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区

日時・場所 : 令和5年9月28日(木) 14:00~17:00 港区民センター

講演テーマ : 「自宅や施設で最期まで過ごすために知っておきたいこと

~ACP看取りの経過について~」

医療法人社団 裕和会 三和クリニック 院長 豊國 剛大

東ブロック : 中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区

日時・場所 : 令和5年9月29日(金) 14:00~17:00 東成区民センター

講演テーマ : 「広げよう! 地域で支え合い! 幸せに暮らせるまちを多職種でつくる」

医療法人綾正会 かわベクリニック 院長 川邊 正和 看護師 川邊 綾香

南ブロック : 阿倍野区、住之江区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区

日時・場所 : 令和5年10月5日(木) 14:00~17:00 浪速区民センター

講演テーマ : 「在宅看取りの主役は誰?」

社会医療法人同仁会 みみはら在宅クリニック 所長 奥村 伸二

<参加者数>

(人)

ブロック	開催日	第1部 参加者数	第2部 参加者数
北	令和5年9月19日(火)	76	64
西	令和5年9月28日(木)	97	91
東	令和5年9月29日(金)	108	104
南	令和5年10月5日(木)	78	73
合計		359	332

<アンケート結果>

所属先(内訳)

(人)

所属	北ブロック	西ブロック	東ブロック	南ブロック	合計
病院	4	3	7	3	17(5.3%)
クリニック・診療所	1	4	7	0	12(3.8%)
歯科医院	3	4	7	6	20(6.3%)
薬局	12	25	37	17	91(28.6%)
訪問看護ステーション	9	8	7	8	32(10.1%)
地域包括支援センター	7	7	4	6	24(7.5%)
居宅介護支援事業所	2	10	8	11	31(9.7%)
訪問介護・通所事業所	1	4	2	0	7(2.2%)
区役所	7	10	5	4	26(8.2%)
在宅医療・介護連携相談支援室	19	7	8	11	45(14.2%)
その他	5	3	1	3	12(3.8%)
無回答	0	0	0	1	1(0.3%)
合計	70	85	93	70	318

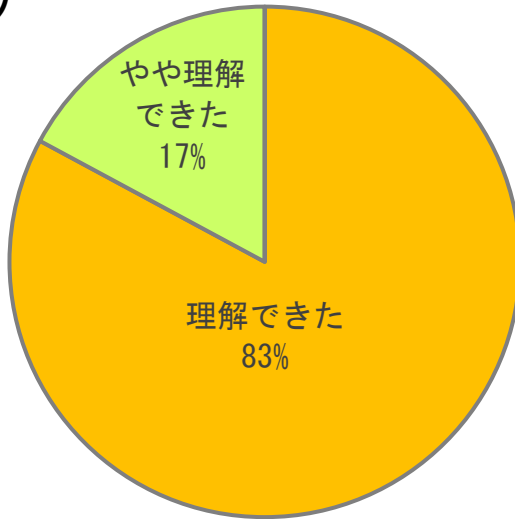
＜アンケート結果＞ 職種（内訳）

（人）

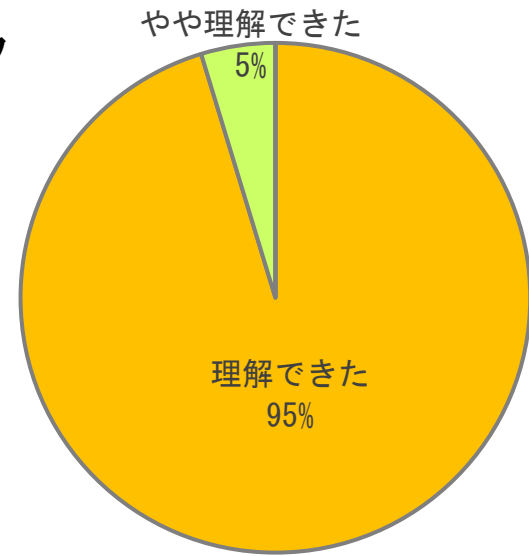
職種	北ブロック	西ブロック	東ブロック	南ブロック	合計
医師	1	0	2	0	3(0.9%)
歯科医師	2	4	4	4	14(4.4%)
薬剤師	12	24	36	17	89(28.0%)
保健師	4	5	2	3	14(4.4%)
看護師	21	16	12	16	65(20.4%)
介護支援専門員	11	17	11	15	54(17.0%)
社会福祉士	6	8	6	4	24(7.5%)
介護福祉士	2	4	5	1	12(3.8%)
事務職	6	5	7	3	21(6.6%)
その他	5	2	8	5	20(6.3%)
無回答	0	0	0	2	2(0.6%)
合計	70	85	93	70	318

第1部 基調講演の理解度

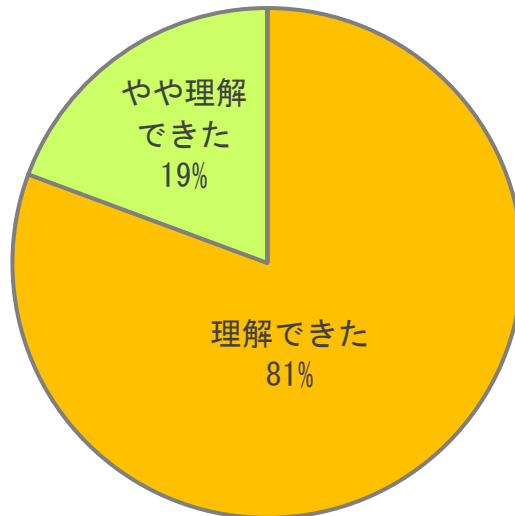
北ブロック
(N=70)



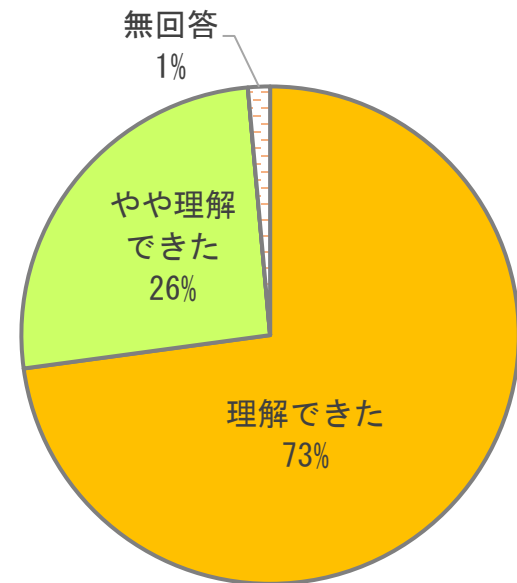
西ブロック
(N=85)



東ブロック
(N=93)

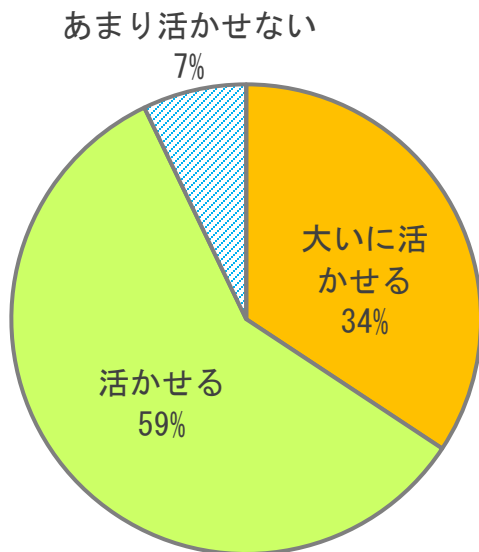


南ブロック
(N=70)

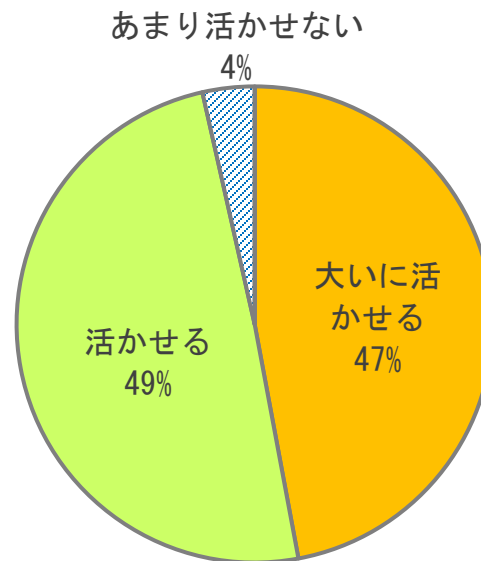


第1部 基調講演の業務への活用

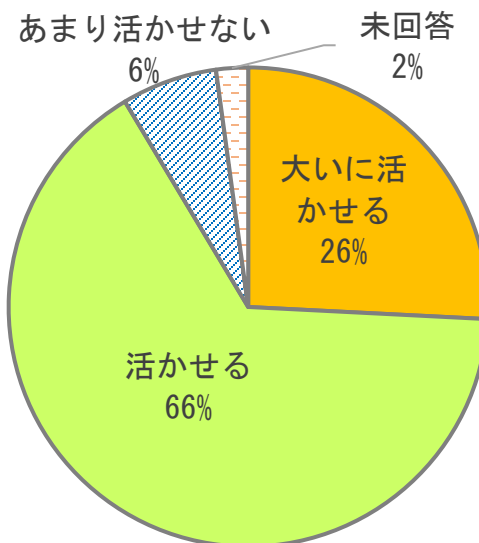
北ブロック
(N=70)



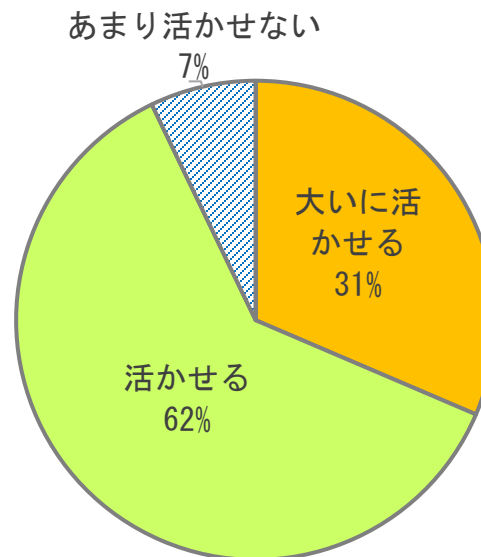
西ブロック
(N=85)



東ブロック
(N=93)

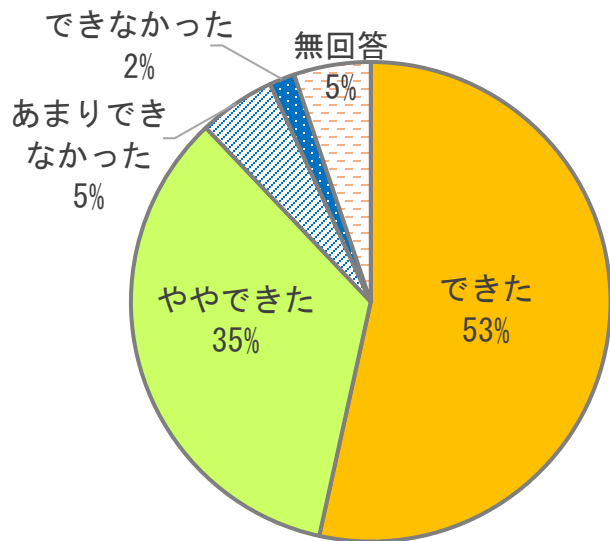


南ブロック
(N=70)

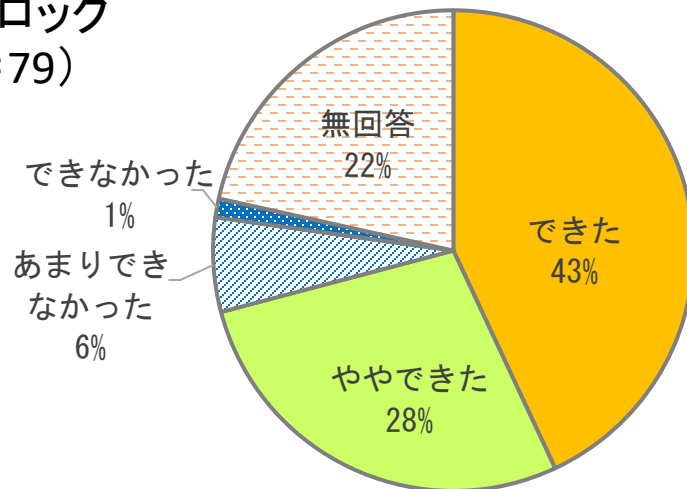


第2部ワールドカフェの専門職との意見交換

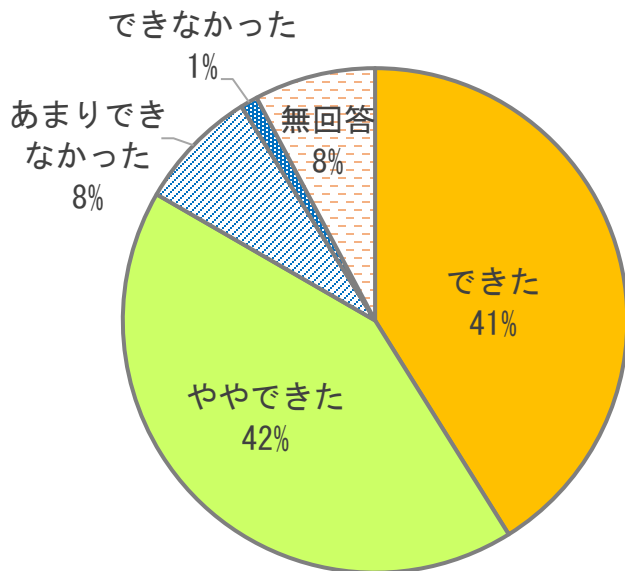
北ブロック
(N=58)



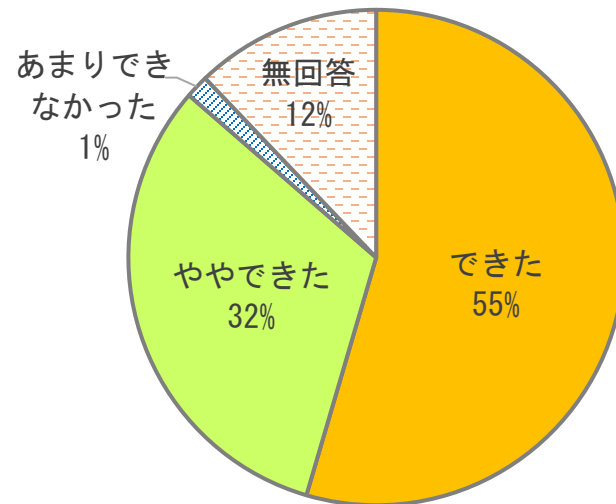
西ブロック
(N=79)



東ブロック
(N=90)

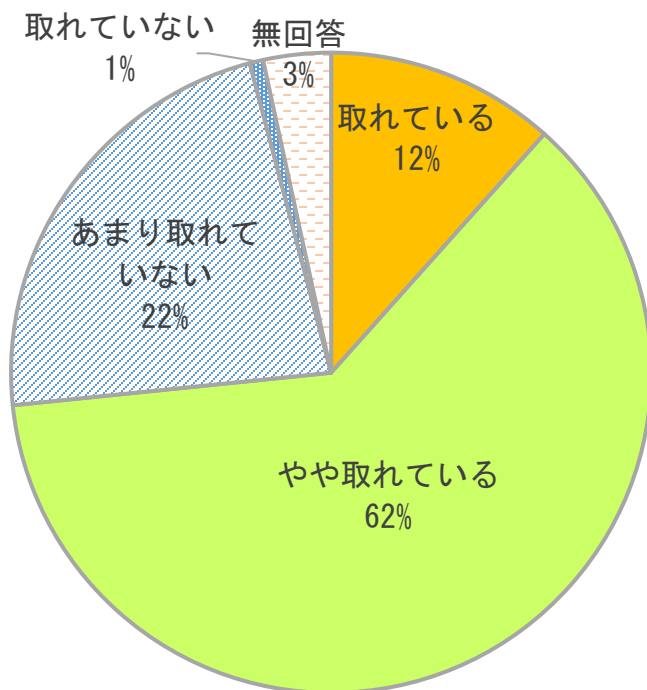


南ブロック
(N=66)



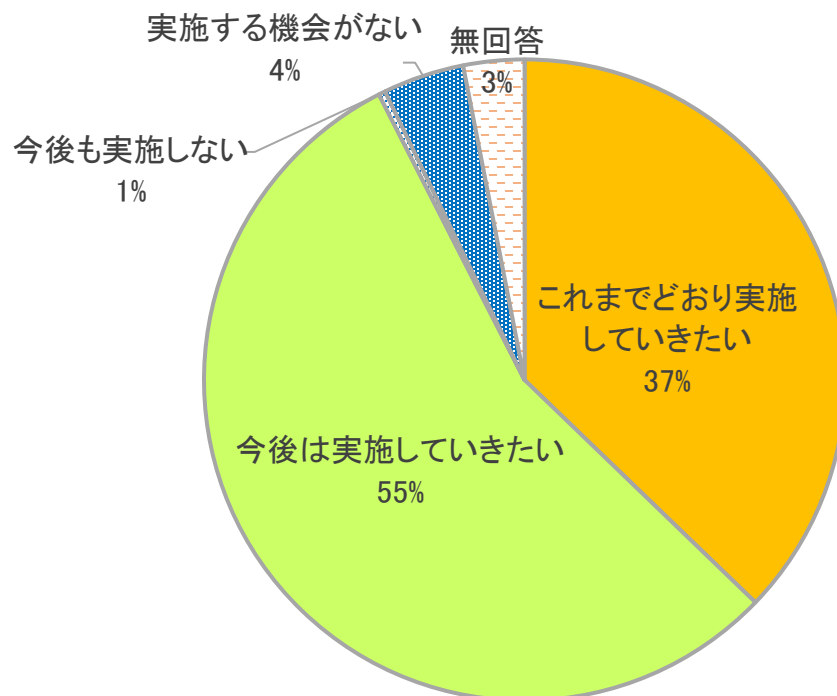
多職種・多機関 との連携度

(N=293)



人生会議(ACP)の 実施予定

(N=293)



自由記載

【第1部 基調講演について】

- ・ACPのやり方について詳しく説明してくださり、理解しやすかったです。活用していきたいと思いました。
- ・人生会議について固苦しく考えず普段の支援の中で十分できると理解できた。そのためには多職種の連携が重要と実感できた。
- ・家族への事前説明の大切さを学んだ。事例を通して考えることができてよかった。
- ・何度も本人や家族の希望を聞く大切さがわかった。
- ・在宅医療の様子が良くわかりました。安心して退院支援できる。
- ・在宅チームの思いが分かり、よりよい連携に取り組める。
- ・地域連携におけるバリアについて私自身も感じました。各職種も感じているとのことでしたので今後は自身で情報を出して共有していこうと考えました。
- ・施設で看取りを行う場合についてもACPの研修を行い職員の意識を高めたい。
- ・とても勉強になりました。家族間で人生会議を実施させていただきます。
- ・終末期医療には関わる機会はないかも知れないが、患者さんの本人の希望を聞くなどにはできると思う。
- ・救急車を呼ぶことの悲劇、知っていないと本当に悲しい悲劇だと思います。知らない人に伝えたい。

【第2部 名刺交換会とワールドカフェについて】

- ・いろんな職種の方とか関わる機会が少ないので良い機会になった。
- ・多職種の方と色々な意見が話せて楽しかった。
- ・もう少し意見交換会の時間が欲しかった。

【今後の希望等】

- ・在宅医療での困難な事例とその課題解決についての研修会をお願いします。
- ・在宅未経験者や初心者向けの研修
- ・ケアマネとしての知識、意見交換などの場があればよかった。
- ・障がいの方も仲間に入れてください。
- ・BCP（地域別）
- ・ブロック開催ですので、各区で取り組まれている包括的ケアの実践例など学べると嬉しいです。

【来年度にむけて】

- ・今年度は近隣市の在宅医療を実践されている先生を招いて、基本保健医療圏域ごとで研修会を開催することができた。事例を交えた講演は大変好評であったので、次年度も事例を含む内容を検討したい。
- ・多職種の理解を深めるための時間確保の必要性を感じたので、グループワークの時間の確保についても検討したい。

【日 時】

令和6年2月26日（月） 13：30～16：40

【場 所】

天王寺区民センター

【内 容】

第1部 大阪市「在宅医療・介護連携相談支援室」の活動報告
8区より報告

第2部 特別講演

テーマ 『 地域包括ケアシステム構築の未来を見据えて
～在宅医療・介護連携の現在とこれから～ 』

講師 三菱UFリサーチ&コンサルティング株式会社
共生・社会政策部長 主席研究員 岩名 礼介 氏

令和5年度
大阪市『在宅医療・介護連携相談支援室』
(在宅医療・介護連携支援コーディネーター)
活動報告会
令和6年 13：30～16：40
2月26日（月） (13：15より受付開始)

大阪市では高齢にむけて医療・介護連携相談支援室を8区別に、医療と介護の連携を推進する活動を行っています。
今回は報告会では、在宅医療・介護連携相談支援室の活動紹介に加え、地域包括ケアシステム構築における役割と展望を説明します。
在宅医療・介護連携推進事業に関する医療・介護関係者、市民関係の事業関係者の皆様、お待ちしております。

内容 第1部 報告
大阪市「在宅医療・介護連携相談支援室」の活動報告
第2部 特別講演
「地域包括ケアシステム構築の未来を見据えて
～在宅医療・介護連携の現在とこれから～」
三菱UFリサーチ&コンサルティング株式会社
共生・社会政策部長 主席研究員 岩名 礼介 氏

会場 天王寺区民センター
大阪市天王寺区生玉町7-57 (アクセスマップは裏面)

対象 在宅医療や介護に関わる専門職、市区町村の事業担当者

定員 200名（先着）

主催 大阪市健康局 健康推進部 健康推進課
TEL 06-6208-9940 FAX 06-6202-6967

申込期間 1月15日（月）～2月19日（水）

今年度の取組

(1) 区役所への支援

- ①『在宅医療・介護連携推進事業 区担当者等説明会』の実施 ➡ 前回報告済
- ②区役所への個別支援・具体的アプローチに対する支援
(取組調査等より現状と課題を把握し、必要な区へ個別支援を実施)

(2) 相談支援室への支援

- ①コーディネーター連絡会を活用し、コーディネーター間の相互連携の支援
- ②相談支援室への個別支援
- ③新任コーディネーターへの支援

(3) 区役所・コーディネーターのスキルアップと連携

- ①『区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催
- ②地域包括ケアシステム推進研修会（4事業合同研修会）の開催

【区役所への個別支援】

昨年度の取組調査や新任コーディネーターの区など、支援対象区を抽出し、5月より支援開始
➡ 現在までに12区訪問支援を実施
電話等において、適宜相談支援を継続

＜支援内容＞

- ・区の取組状況や困りごと、コーディネーターとの連携状況を聞き取り
- ・相談支援室訪問で聞いた課題やコーディネーターの思いを伝え、連携を促す
- ・医療・介護関係者の研修、地域住民への普及啓発実施に向けた相談支援

＜具体例＞

区役所担当者からの相談内容	対 応
コロナ禍で推進会議が開催されず、その間に事業担当者が異動でいなくなり、推進会議をどのように開催すればよいかわからない。	区役所に訪問し、他区の推進会議メンバーや内容について情報提供。
在宅医療・介護連携推進事業の広報誌への掲載について支援してほしい。	掲載内容について確認し、区役所、コーディネーターと共に検討する。
コーディネーターとの関係構築が難しい。	区役所、医師会（在宅医療担当理事・事務）・コーディネーター同席のもと、事業について再度説明し、関係者で共有して進めるよう助言。

【コーディネーター間の相互連携の支援】

- ・コーディネーター連絡会におけるグループワークや情報交換を基本保健医療圏域ごとではないグループで実施し、コーディネーター間の相互連携を促進

【相談支援室への支援】

- ・コーディネーター連絡会で情報共有のため各区の相談支援室の取組について発表
- ・電話等において、適宜相談支援を継続

【新任コーディネーターへの個別支援】

- ・経験の浅いコーディネーターが配置されている相談支援室に対して、面談や電話にて支援
- ・報告資料の作成について支援
- ・支援フローに基づき、新任コーディネーター支援に関して現状把握

＜支援フロー＞

採用月	：	事業説明	（局担当者よりコーディネーター手引書を用いて説明）
採用3か月	：	実践講義	（先輩コーディネーターの活動や心得など講義）
	：	実習	（他区のコーディネーターの活動に同行）
採用9か月	：	進捗確認	（新任コーディネーターへの聞き取り）
採用12か月	：	振り返り	（コーディネーター連絡会において感想など発表）

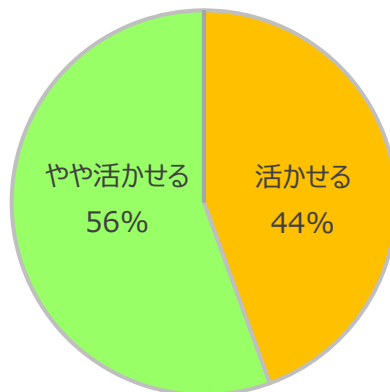
<アンケート結果>

対象 採用1～2年目 14名 採用平均月 6.8か月

問1 採用月のコーディネーター手引書や日報・月報研修

業務への活用度

参加あり	9
参加なし	5

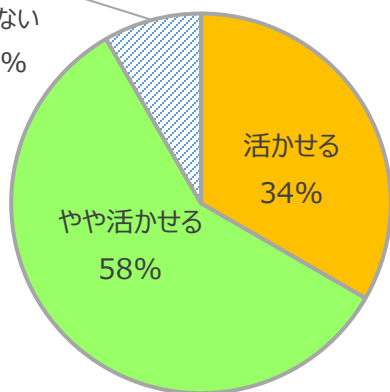


問2 採用3か月頃先輩コーディネーターからの講義研修（実践編）

参加あり	12
参加なし	2

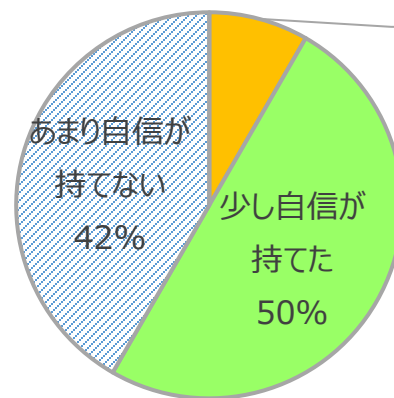


あまり活か
せない
8%
業務への活用度



業務遂行への自信

自信が持てた
8%

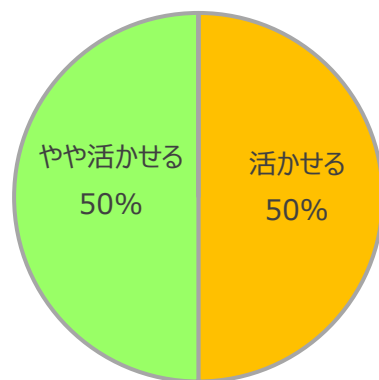


問3 採用3か月頃の先輩コーディネーター区における実習

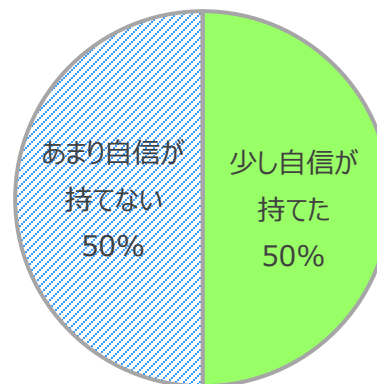
※ 先輩コーディネーターからコーディネーターの活動内容や区役所との連携状況
会議や事例検討会、多職種連携事業に参加

3区に1～2名が参加し、計4名が実習を体験

業務への活用度



業務遂行への自信



<実習記録・感想>

- ・医療機関との連携など参考になった。関係機関と連携しながら考えていきたい。
- ・自分の思い込みで事業など進めていたことに気づいた。
- ・関係機関との関係性に尽きると感じた。
- ・グループワークに実際に参加して関係機関との関係性や協力状況などを知ることができた。
- ・コーディネーターはじめ区役所の方からも、まずは何から始めればよいか、アドバイスを頂いたり、現在の関係性に至るまでの経緯や取組を聞かせていただき参考になった。

区役所及び相談支援室への研修会の開催

開催予定

区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター 第2回合同研修会

【日 時】 令和6年1月18日（木） 15：00～17：00

【内 容】 『区役所・相談支援室の取組状況（上半期）の結果について』

【場 所】 中央区民センター

地域包括ケアシステム推進研修会 （4事業（地域支援事業）合同研修会）の開催

実施済

【日 時】 令和5年11月24日（金） 14：00～17：00

【内 容】 1. 『地域包括ケアシステムへの各事業の業務』と『事前アンケートのまとめ』について
2. 『生活の包括的支援と連携の連関』

講師：大阪成蹊短期大学 准教授 鈴木 大介 氏

3. グループワーク 第1部（区混合）第2部（自区のみ）

【場 所】 福島区民センター

地域包括ケアシステム推進研修会 アンケート結果

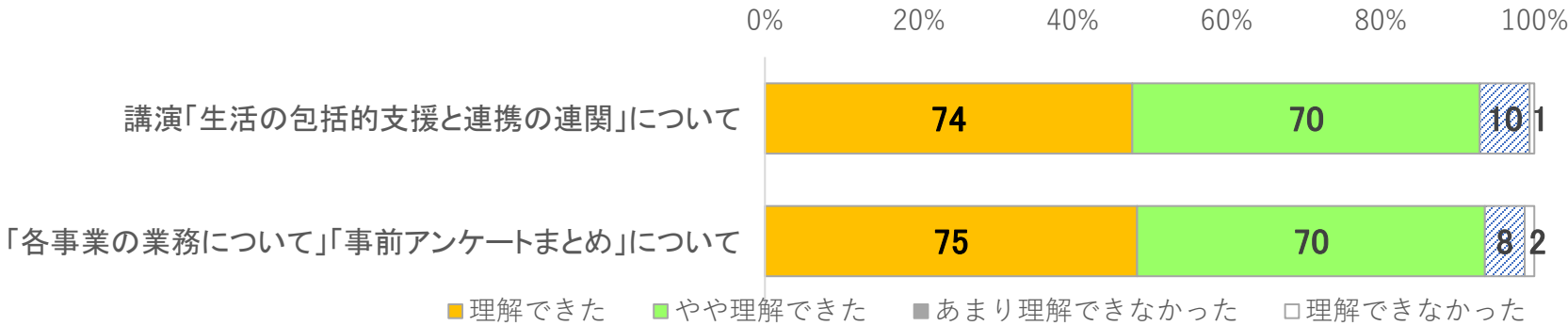
【参加者】 187名

在宅医療・介護 連携相談支援室	地域包括支援 センター	認知症総合 支援事業	生活支援 体制整備事業	区役所 保健担当	区役所 福祉担当
24	66	24	22	26	25

【アンケート回収数】 155名（回収率：82.9%）

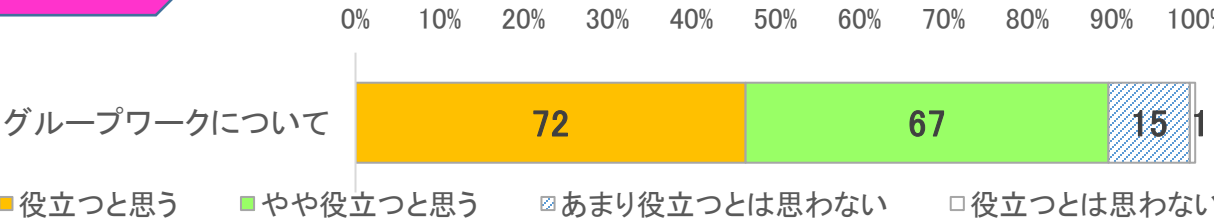
1）研修会の理解度について

(n = 155)

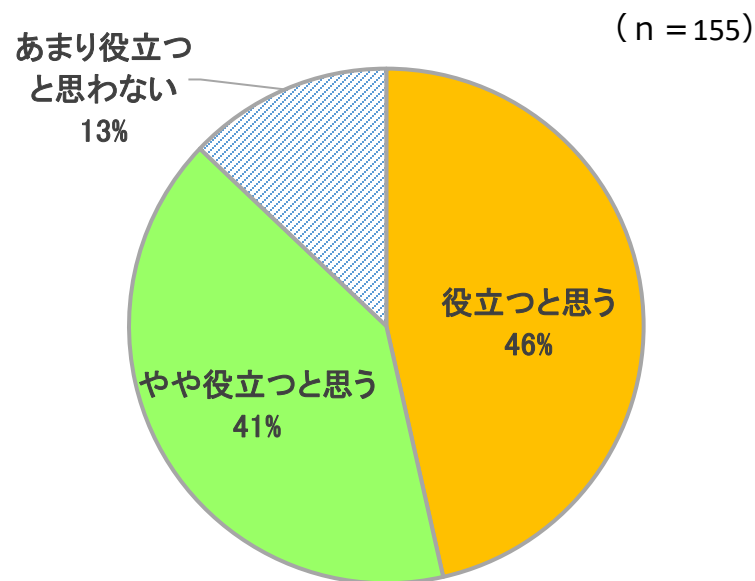


2）研修会の活用度について

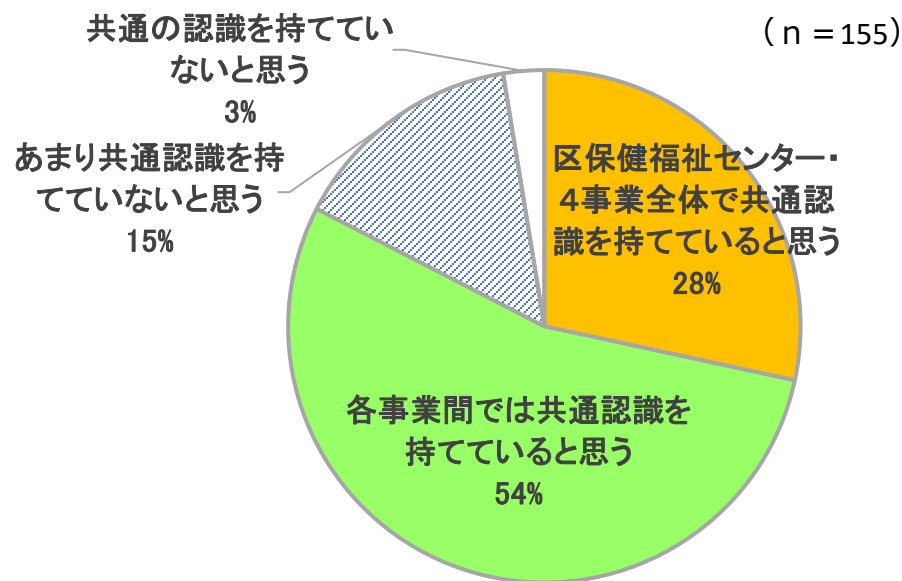
(n = 155)



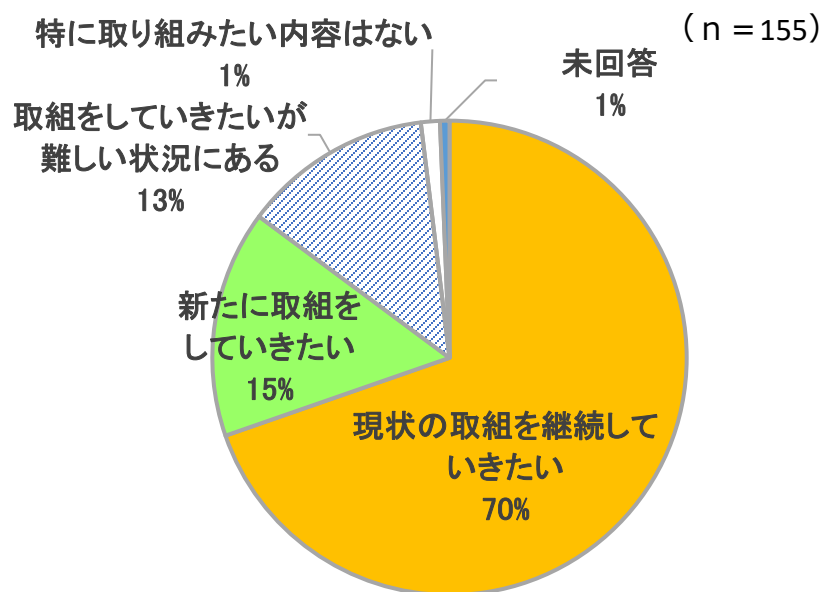
3) 今後の協働した取組に対して



4) 地域包括ケアシステムの共通認識



5) 今後の取組への意向



自由記載

- ・地域包括ケアシステムの各事業の業務について、より深く知る事が出来ました。
- ・連携のあり方について、課題の確認と課題を共有し得る他者の確認等の連携の展開過程が理解しやすかった。
- ・連携活動において、自区での取り組み方を再確認することができ、ロジックが整理できた。
- ・社会資源の可視化、共有について、地域の力を改めて考えるきっかけになりました。
- ・本人の主体と全体の視点でアセスメントしていかないといけない事が再認識できました。
- ・自区の報告案件すら知見しておらず、まだまだ区と4事業の連携はできていないと感じた。
- ・医介連携が進めていないと感じているため、お聞きしたことを踏まえて進めていきたい。
- ・グループワークの構成を1部、2部と分け、連携事例の共有がスムーズに行われた。
- ・グループワークの時間が短く、話の途中で次のフェーズに移らねばならず、消化不良のようなワークだった。
- ・多職種で行うグループワーク形式による意見交換等が参考になりました。
- ・多角的な考え方が有り、自分では気づかない事も発見できた。
- ・他区のいろんな機関の現状などが参考になりました。自区の関係者とも、事例を通じて、一緒に考えることができました。
- ・他区が多職種との意見交換により、区の特徴がこれほど違うのかと感じた。
- ・継続した取り組みを着実にを行い、新たな取り組みに展開していきたいと思います。